

地域の居場所となる家

こまじいのうち

住所：東京都文京区本駒込 設計者：竹田和行建築設計事務所＋創楽建築設計事務所
延べ床面積：108㎡（図面から算出） 開設年：2013年10月1日



地域住民が集まる1階のリビング

理念

このカフェは利用者の幅が広く、赤ちゃんや子ども、学生や留学生、お母さんやお父さん、高齢者など様々な人が利用している。多世代交流をすることで、家族には話せないことも話したり、若者に刺激を受けて新しいことに挑戦をする高齢者もいたりする。同じ年代ではなくほかの年代と話すことが活力を生んでいる。そして利用者スタッフの関係も曖昧であり、利用者が自ら飲食物を提供したり、スタッフが座りながら会話に参加したりする。そういったスタッフと利用者には垣根がない関係が、利用しやすい環境をつくっている。

計画

カフェ立ち上げは、駒込地区で居場所作りの計画が上がったことを知った、町内会副会長（運営代表）が自分の持っている空き家を活用する提案をしたことから始まった。基本的な方向性は次のように決められた。

- 駒込地区町会連合会が主催
- 一人暮らしの高齢者、子育て世代、青少年などを対象
- 町会からの分担金の協力
- 東京都の「地域の底力再生事業助成金」の活用
- プログラムやソフトは地域福祉コーディネーターが担当

運営

運営組織は大きく分けると町会長が中心となる「運営委員会」、実際の運営を担当する「活動者」「事務局」、そしてその両者を合わせた「実行委員会」という3つのグループで構成されていた。当初は「活動者」の役割がはっきりしていなかったが活動が安定してくるにしたがって、明確になってきた。それに伴い、もともと地域で活動をしていなかった人がボランティアに来てくれるようになった。しかし、ボランティア間で連携が取れず個人がバラバラで活動する状況になってしまった。そのことを踏まえ、運営の核となるボランティアを「コアスタッフ」と呼び、月に一度定期的なミーティングを行うようになった。

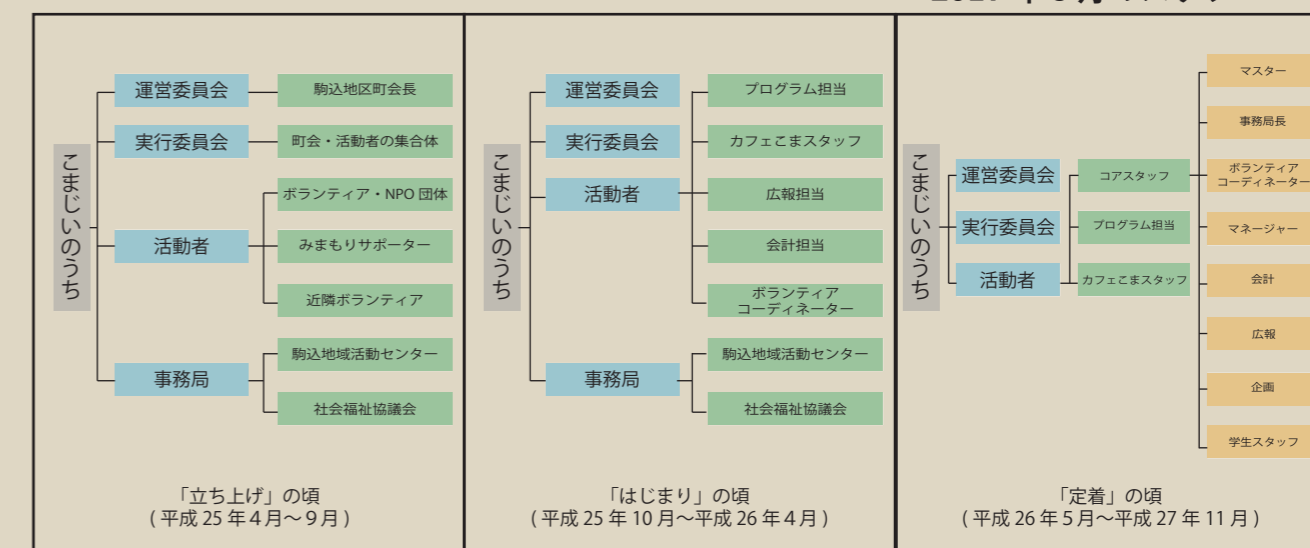


多世代で交流している空間

～2017年5月のプログラム～

月	火	水	木	金	土	日
1	2	3	4	5	6	
休館日	カフェこま 10:00-15:00 (F100)	休館日 (GW連休)	休館日 (GW連休)	休館日 (GW連休)	休館日 (GW連休)	休館日 (GW連休)
8	9	10	11	12	13	
びびるおしゃべり 10:00-14:00 (F100)	カフェこま 10:00-15:00 (F100)	読書カフェ 10:00-15:00 (F300)	カフェこま 10:00-15:00 (F100)	カフェこま 10:00-15:00 (F100)	おしゃべりカフェ 13:00-17:00	実践(てらまっち) 13:00-17:00
15	16	17	18	19	20	
休館日	カフェこま 10:00-15:00 (F100)	カフェこま 10:00-15:00 (F100)	カフェこま 10:00-15:00 (F100)	カフェこま 10:00-15:00 (F100)	実践(てらまっち) 13:00-17:00	休館日
22	23	24	25	26	27	
休館日	カフェこま 10:00-15:00 (F100)	読書カフェ 10:00-15:00 (F300)	カフェこま 10:00-15:00 (F100)	カフェこま 10:00-15:00 (F100)	実践(てらまっち) 13:00-17:00	休館日
29	30	31				
休館日	カフェこま 10:00-15:00 (F100)	読書カフェ 10:00-15:00 (F300)	カフェこま 10:00-15:00 (F100)	カフェこま 10:00-15:00 (F100)	実践(てらまっち) 13:00-17:00	休館日

2017年5月のスケジュール





こまじいの家 入り口の写真



部屋から玄関まで視線が通る

こまじいの家 リノベーション

コアメンバーの一人から、助成金に頼らなくても運営ができるようにカフェで使われていないスペースをリノベーションして、賃貸する事業が提案された。リノベーションのための資金(300万円)はベルノ・リカール・ジャパン(ワイン製造業)からの寄付金130万円と、一口3万円の私募債と一口5千円の寄付を実行委員会に呼び掛けて工面した。リノベーションの工事には企業のCSR活動としてベルノ・リカール・ジャパンも社員も参加した。

改修後のこまじいの家

1階：改修前は二つの和室の空間をふすまで仕切っていたが、改修後はこのふすまがなくなり、一つの和室になり活動の幅が広がった。大人数で利用する場合は1つの大きな和室として使い、複数グループで利用する場合は柱と長押(なげし)で空間を分けて利用している。また仕切りがなくなったことで、玄関から和室まで全体を見ることができ、それぞれのアクティビティを見ることができる。

2階：改修前は下宿として使われていたため、廊下と2つの居室で構成されている。改修後は壁と天井がなくなり、柱と梁が残った一つの大きな空間となった。このスペースは収益源となるシェアオフィスや大学の講義の場所として利用されている。

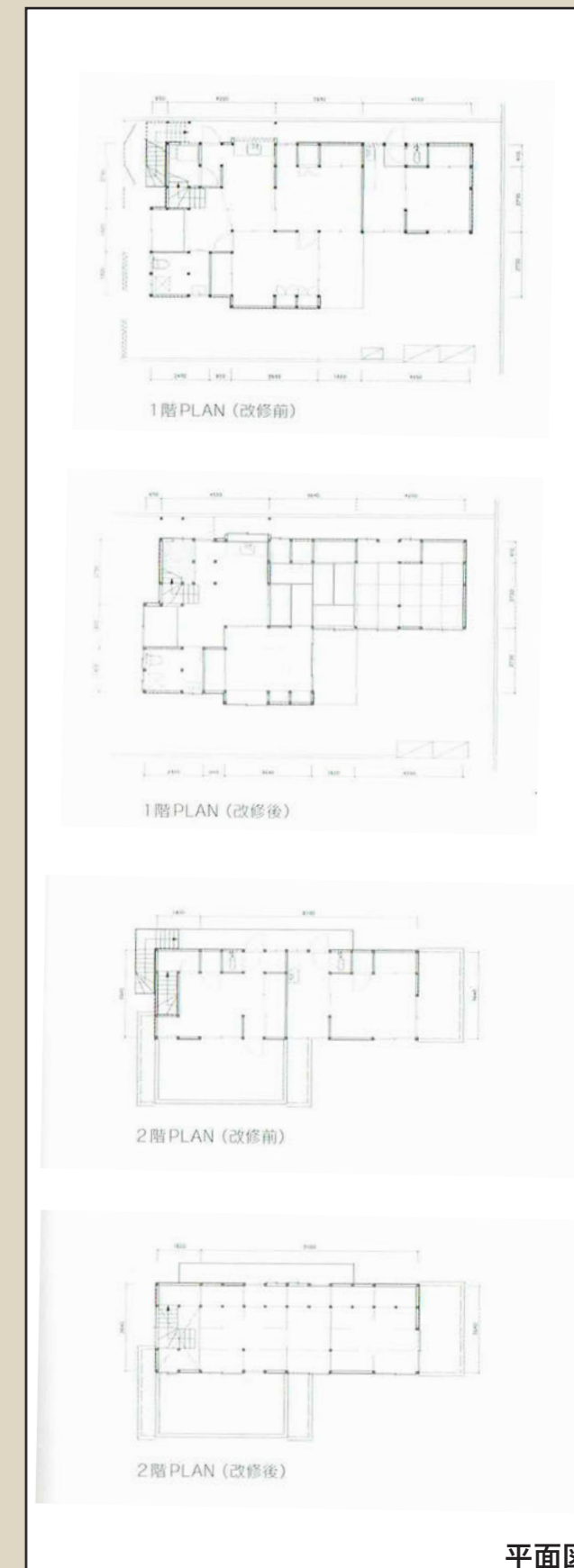
カフェでの活動

カフェではさまざまな活動が同時に起こっている。こどもたちがおもちゃで遊びながら、隣の部屋では高齢者が談笑したり、親同士が交流したりしている。居室に仕切りがないため、それぞれの活動をお互いに認識できるので、こどもが危険な行動をしてもほかの利用者が注意できるようになっている。そのことがきっかけとなり活動が合わさることもある。空間を仕切りすぎないことが多世代交流を促すきっかけになっている。プログラムは利用者が提案したものが採用されることがある。そのためスケジュールは様々なプログラムでいっぱいになっている。

参考資料：こまじいのうち みんなの居場所。



2階は講義や会議の場として利用される



平面図